

## パプアニューギニア・LNGプロジェクトの最終投資決定について

記者各位

当社(社長:西尾 進路)グループの石油開発部門である新日本石油開発株式会社(社長:古関 信)が出資する日本パプアニューギニア石油株式会社の100%子会社マーリンペトロリアムは、本日、パプアニューギニア独立国でのLNGプロジェクト事業化に向けた最終投資決定について、プロジェクト参加企業間で合意しましたので、お知らせいたします。

本プロジェクトは、パプアニューギニア独立国における初めてのLNGプロジェクトであり、陸上のガス田および油田から生産される天然ガス(随伴ガスを含む)を、全長750キロメートル超(陸上300km+海底450km)のパイプラインで首都ポートモレスビー近郊まで輸送し、LNGプラントで液化して商業化することを計画しております。既に東京電力等の買主と売買契約を締結済みであり、2010年初めまでには、すべての買主との売買契約締結を完了する予定です。

今後、約4年間の建設期間を経て、2014年にLNGの出荷を開始、プロジェクト全体の生産数量は年間660万トン(原油換算約16万BD)を予定しており、可採埋蔵量としては2億トン程度を見込んでおります。なお、生産開始までのマーリンペトロリアム社の投資額は、7億ドル程度となります。

LNGはクリーンエネルギーとして、今後日本を中心にアジア地域での需要の拡大が見込まれており、本プロジェクトはその重要な供給源となります。当社グループにおいても、LNGの供給量増加を目的として、本プロジェクトに初期段階から参画しており、マレーシア(ティガ)、インドネシア(タング)に次ぐ3番目のLNGプロジェクトとして開発を進めております。

当社グループでは、オセアニア地域を石油・天然ガス開発におけるコア・エリアの一つと位置付けており、今後も同地域において積極的に事業を展開し、一貫操業体制の確立とエネルギーの安定供給に向けて、一層の努力を続けてまいります。

以上

## パプアニューギニア・LNGプロジェクト参加企業（権益比率）

参加企業	権益比率	概 要
エクソンモービル	33.2%	本プロジェクトのオペレーター
マーリンペトロリアム (※1)	4.7%	日本パプアニューギニア石油（※2）の 100%子会社
オイルサーチ	29.0%	パプアニューギニア石油ガス開発会社
サントス	13.5%	豪州大手石油会社
IPBC	16.6%	パプアニューギニア政府機関
MRDC	2.8%	パプアニューギニア地権者代表機関
Petromin	0.2%	パプアニューギニア政府系企業

(※1) 本最終投資決定をもって、当社グループとしての本プロジェクト参加企業は、マーリンペトロリアムからその100%子会社 Nippon Papua New Guinea LNG LLC に変更されます。

(※2) 日本パプアニューギニア石油株式会社

(英文名 Japan Papua New Guinea Petroleum Company, Limited)

1. 設 立 : 1990年6月7日
2. 所 在 地 : 本 社…東京都港区西新橋1-3-12
3. 代 表 者 : 取締役社長 古関 信 (新日本石油開発株式会社代表取締役社長)
4. 資 本 金 : 128億2,600万円 (2008年12月31日現在)
5. 株主構成 : 日本国 62.03% 新日本石油開発 36.41% 三菱商事 1.56%
6. 事業目的 : パプアニューギニアにおける石油、天然ガスおよびその他鉱物資源の探鉱・開発・採取ならびに鉱業権の取得・売買および貸借

## パプアニューギニア・LNGプロジェクトの位置図

